

下関最古級の現役薬局と關の町誌



現在の亀屋と同店に掲げてある致新膏の看板

下関の初代市長伊藤房次郎が当主となった亀屋薬舗は、文禄元年（1592）から亀屋の号で薬屋を始めたといわれます。

15代喜三郎がつくった化膿、あかぎれの治療薬「致新膏」は大評判で「關の惣嫁にやりたいものは、亀屋の致新膏に竹のへら」という歌も作られたほどです。

2代後の伊藤房次郎は「關の町誌」を著しています。